

8 情報モラル

コンピュータやインターネットの利用は、
一般の社会的常識と同様にルールやマナーを守ることです。

急速に発達するインターネット

法整備も追いつかず、
自己管理、自己責任が基本です

- コンピュータやインターネットを利用するうえで、一般の社会的常識と同様にルールやマナーを守って正しく使用するのとは当然のことです。コンピュータとネットワークがますます便利に浸透している現代において、気軽に利用できるからこそ、他人を思いやる気づかいとマナーを身につけることは、現代人にとって最低限必要な常識といえます。インターネット世界は架空の世界ですが、コンピュータの先には必ず人がいます。マナーやルール、モラルは、現実社会のものと同様に変わることはありません。いつでも、「現実社会でこうしたらどうなるか」ということを絶対に忘れないください。
- 便利で楽しいインターネットも、一方ではトラブルや犯罪の温床になっている一面も併せ持っています。インターネットは新しい情報メディアであり、全体を管理する機構もなく、法整備も追いつかないほど急速に発達しているために、この世界では、**自己管理、自己責任**が基本です。
- 他のメディアにはないインターネットの特性をよく理解し、十分に注意を払うことが必要です。

インターネットの情報はすべて正しい？

情報源やオリジナルかどうかの
確認が必要

- インターネットを利用して世界中で発信される情報量は、もはや計測できないほど膨大で、しかも毎日新たな情報が次々生まれています。
- この豊富な情報を簡単に得ることができるのでとても便利ですが、ともすると「探し出したものは正しいもの」と思い込む危険性をはらんでいます。豊富な情報の中には、間違った情報、不確かな情報、古い情報、ウソの情報が多数を占めているといってもよいでしょう。
- 問題は「正しいものと誤ったものが簡単には判別できない」ということです。情報の中から正しいものを選ぶには、それを判断できる眼を養うことが必要です。インターネットで情報を収集する際には、信頼のおけるものであることを確認するために、少なくとも次の確認をするよう習慣をつけてください。
 - (1) 情報源を確認できるか？（情報発信者の法人名／個人名、連絡先などを確認する）
 - (2) 情報は、提供者のオリジナルか？（引用の場合は引用元を確認する）
 - (3) 情報の日付を確認できるか？（いつの情報なのかを確認する）
 - (4) 情報の裏づけがとれるか？（他の情報源からも入手する）

- 他のメディア（書籍、新聞、大学提供情報など）も活用し、安易にインターネットの情報を鵜呑みにしないように心がけることが重要です。また、情報の正確性の確認とともに、断片的な知識による判断、先入観などによる誤った判断をしないように論理的・客観的にとらえるようにします。同時に、自分から発信する情報は正確なものであるよう十分に確認するようにしてください。
- また、手軽に、気楽に情報を発信し、コミュニケーションを取ることができる特性にも注意を払わなければなりません。商品につられてアンケートなどで安易に自分の個人情報を書き込んだばかりに、その情報を転売され、被害にあった例も多いのです。
- 情報を収集している人の顔が見えないインターネットでは、誰が、どんな目的で収集しているかを見抜くことはできません。このことをしっかり意識して判断してください。



誰でも自由にコミュニケーションできるから

ネット上での詐欺、デマの流布、中傷などには気をつけよう

- インターネットでは、「匿名」でのコミュニケーションが一つの魅力になっています。肩書きや年齢などを気にせずに対することができるのは他のメディアにない特徴ですが、これが悪用されることが多いのも事実です。
- ネット上での詐欺、デマの流布、いわれなき中傷などによって、心を傷つけられる人が多くいます。電子掲示板で発言した安直なひと言が相手を傷つけ、名誉毀損の訴えを受けた大学生の実例もあります。
- 一度インターネット上に公開された情報は回収不可能で、心ないひと言が被害を拡大することになります。相手が誰であるかわからない危険性に注意することと同時に、自分が加害者にならないよう、発言には慎重になるべきです。

インターネット上の犯罪にまきこまれたら

大学の担任教員あるいは学生センターにすぐに相談してください

- インターネットでの犯罪から身を守るためには、日頃からの心がけが必要です。起きてからでは遅いと考え、ネット犯罪に関する知識、実態や手口を知っておくようにしましょう。
- 警察庁や各県警ではインターネット犯罪対策ページで、最新の予防策や犯罪事例検索などの関連情報を公開しています。このようなページで基本的な知識を入手しておきましょう。
- しかし、いくら注意をしても犯罪に巻き込まれてしまうことがあるかもしれません。このときには慌てずに、大学の担任教員あるいは学生センターにすぐに相談してください。



警察庁サイバー犯罪対策のページ

<http://www.npa.go.jp/cyber/>